

7つめの問題

B

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

しばらくたって、いちが何やら布団の中で独り言を言った。「ああ、そうしよう。きつとできるわ。」と、言ったようである。

まつがそれを聞きつけた。そして「姉さん、まだ寝ないの。」と言った。

「大きい声をおしでない。私いいことを考えたから。」いちはますこう言っ

て妹を制しておいて、それから小声でこういうことをささやいた。お父っ

さんはあさって殺されるのである。自分は、それを殺させぬようにするこ

とができると思う。どうするかというと、願い書というものを書いてお奉

行様に出すのである。しかしただ殺さないでお願いとお願いと言ったつ

て、それでは聴かれない。お父っさんを助けて、その代わりに私ども子ど

もを殺してくださいと言った頼むのである。それをお奉行様が聴いてく

だすって、お父っさんが助ければ、それでいい。子どもは本当に皆殺され

るやら、私が殺されて、小さい者は助かるやら、それは分からない。ただ

お願いをするとき、長太郎だけは一緒に殺してくだらないように書いて

おく。あれはお父っさんの本当の子でないから、死ななくてもいい。そ

れにお父っさんがこの家の跡を取らせようと言っているつしゃつたのだけ

ら、殺されないほうがいいのである。いちは妹にそれだけのことを話した。

「でも怖いわね。」と、まつが言った。

「そんなら、お父っさんが助けてもらいたくないの。」

「それは助けてもらいたいわ。」

「それごらん。まつさんはただ私についてきて同じようにさえていれば

いいのだよ。私が今夜願い書を書いておいて、あしたの朝早く持つていき

ましょうね。」

いちは起きて、手習いの清書をする半紙に、平仮名で願い書を書いた。

父の命を助けて、その代わりに自分と妹のまつ、とく、弟の初五郎をおし

おきにしていただきたい、**3** 実子でない長太郎だけはお許しくださいるよう

にというだけのことではあるが、どう書きつづけていいかわからぬので、

幾度も書きそこなって、清書のためにもらってあった白紙が残り少なくな

った。しかしとうとう一番鶏の鳴く頃に願い書ができた。

願い書を書いているうちに、まつが寝入ったので、いちは小声で呼び起

こして、床の脇に畳んであったふだん着に着替えさせた。そして自分も支

度をした。

4 女房と初五郎とは知らずに寝ていたが、長太郎が目覚まして、「姉

さん、もう夜が明けたの。」と言った。

いちは長太郎の床のそばへ行つてささやいた。「まだ早いから、おまえ

は寝ておいで。姉さんたちは、お父っさんのだいじなご用で、そつと行っ

てくるところがあるのだからね。」

「そんならおいらも行く。」と言って、長太郎はむっくり起き上がった。

いちは言った。「じゃあ、お起き、着物を着せてあげよう。長さんは小

さくても男だから、一緒に行つてくれれば、そのほうがいいのよ。」

と言った。

5 女房は夢のようにあたりの騒がしいのを聞いて、少し不安になって寝

返りをしたが、目は覚めなかった。

〔森鷗外〕最後の一句〔より〕

133 135 P

(1) 線①「ああ、そうしよう。きつとできるわ」とありますが、何を、どのよう

Grid for writing answer 1

(2) 線②「それ」の指す具体的な内容を、三十字以内(句読点も字数に数

Grid for writing answer 2

(3) 線③「実子でない長太郎だけはお許しくださいるように」とありますが

Grid for writing answer 3

(4) 線④「女房と初五郎とは知らずに寝ていた」とありますが、どんなこ

Grid for writing answer 4

(5) 線⑤「女房は夢のように辺りの騒がしいのを聞いて、少し不安になっ

Grid for writing answer 5